

JOFI OSAKA

JAPAN OFFICIAL FISHING INSTRUCTOR OSAKA



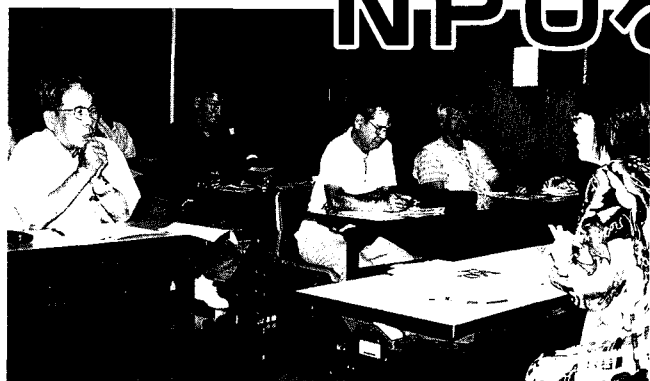
ジョフィおおさか

2002年(平成14年)12月15日

発行者 大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部編集委員会
大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号 大阪府釣り団体協議会・本部内
TEL.06-6245-4800 FAX.06-6245-1360

VOL.11

インストラクター研修会 NPOを考える



理事・事務局長 山田 裕子 氏



平成14年度 JOFI大阪 インストラクター研修会報告

事業部 辻 哲男

テーマ NPOを考える

日時 平成14年9月15日 午後1時30分

場所 大阪NPOセンター(福島区)

講師 大阪NPOセンター理事

事務局長 山田裕子氏

受講者 15名

1 NPOとは何か

Not for profit organization

営利組織は利益の構成員への配当を行うが、NPOは利益の配当は行わない事を原則とする。収益事業を行う事は出来るが、それで得たものを組織の構成員への配当は出来ない、利益非配当の原則を持った組織である。利益の拡大の為ではなく、それぞれの使命実現の為に活動する組織である。

2 NPOの経済的位置付け

・行 政 政 第一セクター

・一般営利企業 第二セクター

・市民、NPO 第三セクター

3 NPO法(特定非営利活動法)の特徴

・市民立法、議員立法で成立した。

・主務官庁が存在せず、所轄庁は内容については価値判断をしない。又、業務内容については監督しない。

・情報公開による市民による監視を規定した。

・設立申請の縦覧、事業報告書等の備え置き及び閲覧、事業報告書等の提出及び、一般市民に対して情報の公開を行う。

・NPO法人の義務

・毎年事業報告や収支計算書等を所轄庁に提出し情報の公開を行わなければならない。

・納税 国税、法人税は公益法人と同様に、法人税法に規定された収益事業からの所得に対して課税される。それ以外は非課税。

・地方税、国税同様収益事業に対して課税される。法人住民税(均等割り)は所得の有無にかかわらず原則として課税される。ただし収益事業を行っていないければ、減額又は、課税を免除される。(手続が必要、税務署、府税事務所、市役所)

・従業員を雇う場合

・従業員を雇う場合は、各種保険等に関連する手続きが必要です。

・労災保険 労働基準監督署

・雇用保険 公共職業安定所

・健康保険、厚生年金保険 社会保険事務所

5 JOFI大阪NPOの検討

NPOの収入は、基本的に会費、寄付金、助成金、補助金、そして事業収益など。

受講内容を要約すると以上のような内容です。NPOが広く社会に認知されてきている

昨今、JOFI大阪としても今後NPOを考え、研究しメンバー間で議論を重ね、JOFI大阪の今後を見据えていきたいものです。

最後に、今回の研修の内容にはなかった事ですが、ヨーロッパの或る国では「1%制度」と言うのがあって、納税者自身が、自身の納税額の1%を納税者本人の希望(支持)するNPO法人に資金を提供するといふもの、日本が国レベルで、あるいは地方自治体レベルでこのような制度が出来ればとも思っています。

JOFI大阪 会員在籍者数	
海水面	180名
内水面	34名
計	214名

(平成14年5月26日現在)

JOFI 大阪の活動報告

公認釣りインストラクター
講習会に参加して

山崎 保彦

平成14年度公認釣りインストラクター講習会が11月3日、4日の2日間にわたってヒューマンアカデミー大阪校御堂筋ビル10階において開催された。役員の方々は10月25日の準備委員会にて当日の役割分担を決め、今年から新しく変わった会場の下見をして講習会当日に備えた。

講習会当日は午前8時より役員皆手分けし、受付、会場の設営等準備にかかった。受講者の到着は意外に早く受験に対する意気込みが強く感じられた。

講習会は吉川会長の挨拶に始まり、釣りの総論、法令、各種釣りについての講義があり、17時30分に1日目が終了。2日目は日本赤十字社の方より救急処置の講義があり、中でも心肺蘇生法の実習では初めての方も多く皆真剣に取り組んでいた。又気象予報士の講師の講義も興味深そうに聞いていた。全体的に今年は若い受講者が多く、将来このような若いインストラクターの方々がたくさん釣りに入っている事はマナーの向上、自然保護、資源を守る等にとって大変有意義であり、この人たちが次世代のリーダーとして活躍してもらいたいと願いつつ2日間の講習会は無事終了した。ただ今回は少し欠席



者の多いが目立った。
最後に吉川会長はじめ講師、役員の皆様ご苦労様でした。

大釣協加盟についての意見交換会

会議目的 役員会に於いて大釣協加盟が提案されたが広く一般の意見を聞く為

開催日時 平成14年9月11日
午後7時～9時10分(2時間10分)

開催場所 於 全関西磯釣り連盟 別室

出席者 吉川 幾久雄・佐藤 功
藤原 堅志・物部 胤三
辻 哲男・高淵 諒
(以上6名)

●JOFI大阪の現状認識・執行部と一般インストラクターでは認識の差がある

平成4年度に公認釣りインストラクター制度が発足し、大阪において平成8年度に世話人会の人達により、大阪府釣りインストラクター連絡機構として組織化され機能するようになった。インストラクター制度が発足した当初は、大釣協傘下の連盟クラブ加盟者が大半であったが、現在では府内在住釣りインストラクターでは251名中107名、JOFI大阪会員では216名中101名が大釣協会員であるからかなりの団体に所属しているにすぎない。(会員)

今日では大阪府水産課・日釣振には活動を評価されるようになったが、大阪府釣りインストラクター連絡機構としての意見要望等を諸管庁・団体へ具申・提言・折衝するルートが確立されていない。(会長)

お上・他団体の下請け言いなりに利用されるでなく、独自の活動をすべき。(会員)

●都府県釣り団体協議会と全日本釣り団体協議会の関係(会員)

全日本釣り団体協議会は都府県釣り団体協議会と広域釣り団体協議会の会員により成り立っているが、広域釣り団体協議会会員でありながら、都府県釣り団体協議会会員でもある事があった(会長)

●インストラクター規定によると連絡機構に所属せねばならないとあるが全国にあるのか(会員)

5年前より各地に連絡機構が設立され現在21の連絡機構が機能しているが、未だ設立されていない県が多くあるが活動をより効果的にするにも横の連絡を密にする必要がある。1日も早く連絡機構の設立が待たれる。(会員)

●既に釣りインストラクターは全日本釣り団体協議会会員なのは釣りインストラクターニュースNo13にもあるように、社団法人全日本釣り団体協議会傘下の釣りインストラクターとすでに全釣協の下部組織であるような表現がなされている。またインストラクター連絡機構松平本部長・インストラクター委員長に対する、全釣協理事さんの御礼の言葉にも伺える。(会員)

●インストラクターは連絡機構に全員加入の事と一方的に言われているが

連絡機構のない地方の会員及び連絡機構に未加入の人また、連絡機構への会費未納者はインストラクター資格を剥奪されるのか、また、そうであれば講習・試験のときに連絡機構加入をしろしめるべきだ。(会員)

平成14年度釣りインストラクター資格受講者に対する制度説明の中には規定の中で明記されている。(事務局)

●講習会・資格試験・登録料等インストラクターが支払った諸費用がインストラクター活動に使用されているか定かではない。(会員)

法に基づく監査により適正との評価を得ている。また詳細についてはその明細の開示を受け判断すべきだ。(会長)

●釣協とインストラクターは成り立ちの目的が異なる。(会員)

釣協はクラブの集まりであり、クラブは自分達が楽しく釣りをし、技量を磨き、仲間相互の融和を図りクラブの維持、発展を目指すものであり、インストラクターは釣りを通じ、世の中、人の為に働きかけようとするもので、釣り場環境の保持、職漁者との融和、釣技の伝承等共通するものもあるが、自分の為か、他人の為か根源にかかわるところに違いがある。(事務局)

2003年
新春懇親会開催のご案内

とき 平成15年1月13日(祝日)
午後1:00～3:00
ところ 大阪梅田ヒルトンホテル
真珠の間
大阪市北区梅田1-8-8(JR大阪駅前)
06-6347-7111
かいひ 10,000円(当日会場で受付)

例年どおり、各界からも参加されますので釣り業界最前線のお話が聞けるとともに、交流の輪を広げましょう。また、豪華賞品を取り揃え皆様の参加をお待ちしています。



淀川「わんど」クリーン 大作戦に「参加して」

稲本英爾



七月は河川愛護月間、今年も七月二十日、晴天のもと淀川クリーン大作戦が淀川河川敷城北ワンド地区で大々的に実施された。

主催は、LOVE淀川遊実行委員会国土交通省近畿地方整備局淀川工事、事務所、財、河川環境管理財団ラジオ大阪だが、JOFI大阪のメンバーも加わってこれに参加した。

昨年と異なり今年は釣り人の数が多く見られ、その方々のごみに関するマナーはどうか？一瞬思いが走ったが、それはとりこし苦労だった。

ステージのラジオ大阪の近藤理恵アナウンサーと笑福亭たまさんの司会で大作戦は開始された。主

催者側発表、約六〇〇名の老若男女がいっせいに手袋をはめ、ビニール袋を片手に各方面に散り汗をかきながら作業を開始した。JOFI大阪のメンバーも自分達の行く釣り場のごみ問題に思いを寄せながらの作業ではあったが、年々この場所のごみが少なくなっているのがとても嬉しかった。

又、淀川の自然と植物・淀川上流部での問題とその対策、淀川下流部での問題とその対策など詳しいパネル展示がなされており、作業が終わってから参加者は熱心に読みふけていた。

平成14年度 全国一斉釣り場清掃デーと ファミリィ釣り大会

三鍋 哲

10月13日、泉佐野食品コンビナート護岸で、日本釣り振興会大阪支部主催による全国一斉釣り場清掃デーと大阪府ファミリィ



釣り大会が開催されました。雲一つない好天に恵まれ、エントリー260名以上の参加の中で行われました。当日は小潮ということもあり、巡回していても釣れない、あたりもない。」との声がほとんどで心配していましたが、いざ計量の時間が来ると、アジ、チヌ、スズキ、ボラと次々に持ち込まれ、子供達から感嘆の声が上がっていました。

また、釣り場の清掃は、インストラクターの皆さんが先頭に立って参加者との会話も楽しみながら護岸巡回を行い、「苦労様です。」とのねぎらいの言葉も頂きました。子供達をはじめ参加者の皆さんも快く清掃にご協力頂き、楽しい思い出となった一日でした。

普通救命士講習会を受講して

清水英樹



平成14年8月4日、大阪府中央消防署にて、釣りインストラクター普通救命士講習会を受講してきました。この講習の目的は救命技術を習得すると共に維持向上をする事にあります。

救命技術を身につけていると本来あつてはならない事ではありますが海難事故が起きた時、迅速に処置を施せば一命を救える可能性があるからです。

この講習を受け命の尊さを知ると共に、他のインストラクターの皆様にも感心を持つて頂きたいと心から思いました。

今回、御協力頂いた中央消防署救急隊のみな様、本当にありがとうございました。

大阪湾チヌの稚魚放流事業

報告者 中澤 昌明

大阪湾
は、かつて「チヌの海」と呼ばれたように、魚が豊富に住んでいたところであつた。これを取り戻そうと日本釣振興会大阪支部と大阪府釣団体協議会の呼びかけで、今年もチヌ(クロダイ)稚魚放流事業が8月29日に行つた。



午前9時すぎ、本部となつた堺新港には、お世話いただくボランティア・JOFI会員及びマスコミ関係者等多数で賑わつた。

「芽渚の海を次世代に引き継ぎたい。今年も放流事業ができ関係者に感謝している。」と代表者の挨拶の後、大阪府栽培漁業センター(岬町多奈川)で育てられた5cm程の元気な稚魚2万7千匹をバケツリレーで、放流船の丸高渡船・ヤザワ渡船に積み込まれた。また、マスコミ関係者用として丸本渡船も参加いただき出港した。

当日は、台風15号の影響で小雨の降る中、「元気に育つて釣りファンの夢を叶えてほしい」との願いを込めて、大阪南港・北港や堺市・岸和田沖で放流した。一年中、チヌが釣れる大阪湾と、釣仲間のクチコミにより、今年も数多くの成果があつたこと。大阪湾の水質浄化も放流による要因と考えられ、これから放流事業を続けていきたい。

各地で開催された釣り教室模様

寝屋川市わんぱくスクール

「親子ふれあい」釣り教室開催される

寝屋川市スポーツ少年団本部 谷川 義文

わんぱくスクールは、小学校低学年を対象に基礎体力の養成と仲間づくりをめざし、子ども達にスポーツの楽しさを体験してもらうために、遊びの要素を多く取り入れ、遊びを通して健全な身体と心の発育を促しスポーツという文化を育てていきたいと活動しています。

今回、7月13日(土)大阪府釣りインストラクター連絡機構の皆様の協力を得て、子ども達に釣りの楽しさを体験させたいと「親子ふれあい釣り教室」を実施いたしました。

当日朝寝屋川市では集中的な雨が降っていましたが、現地(貝塚港)の天候は回復しており実施することに決めましたが、参加者や招集担当の先生方には大変な作業であったと思います。雨での欠席者少なく一〇六名が参加子ども五七名、保護者四九名いました。

車中ではインストラクターによる釣り教室が開かれ注意事項やつり方釣りのマナー等に学習いたしました。子ども達をはじめ初心者が多く大変参考になりました。

貝塚港に着く頃には、天気も回復し絶好の釣り日和となり、早速サビキ釣り挑戦しました。

会場では、つれたと歓声が、あちこちであがり、小アジが沢山つれ、中には、四〇cmのボラを釣り上げた子もあり、子



ども達の素晴らしい笑顔や友達・親子の楽しい会話がありました。大人も童心にかえって釣りを楽しまれ、あるお母さんは夏休みには家族で釣りに来ます!!と言われたことが特に印象的でした。

今回の釣り教室は、はじめての試みでしたが、私達が考えていた当初の目的は達成出来たと考えています。来年度も継続して実施したいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

つりにいったこと

ふくおかきょうへい

7月13日、つりに行きました。かぞくだけじゃなく、ワンパクスクールをしているみんなといきました。

ぼくは、一匹もつれなかった。でもおとうとは、一匹つれた。お母さんも一匹つた。ぼくとお父さんは、なん回もしたけど、つれなかった。ぼくは、とうとうつかれて、やらなくなった。15分くらいつくと、もいちごやった。でもつれない自分のきもち、つりなんかこなかったらよかったなと思った。

つりざおを海におとそうと思った。ごはんのときお母さんに「おかずはなに。」ときくと「アジ。」とこたえた。

でもたべてみると、ちよつとまずくて、後のほうはおいしかった。らい年はいつかつりな。

釣り教室に参加して

福岡 幸子

この教室に参加申し込みをして、子ども達と楽しみにしていました。今までに何度か釣りに行っているけれど、今回はたくさんの友達との参加になるからです。バスの中、魚の事など書かれたプリント

をもらった時

からもう私の

頭の中には「大

漁」という言葉

が浮かんでお

り、夕食のメ

ニューまでもが

頭にうかがぶ

態でした。

さて現地に

着き、班に分

れ、一人一人に

竿を渡しても

らいいよいよ

スタートです。

よしやるぞ

と4才の息子

と糸を垂らし

ました。が、い

つまでたつても

釣れそうにあ

りません。何度

もエサを入れ、

糸を垂らしま

す。少しずつ、

周りの人の様

子が気になり

始めました。遠

い所にいる人

は、たくさん釣

っている様に見えます。

「そのうち魚がこつちにも来るよ。」

と子供に話すもの、少しずつ私の頭の中

からは「大漁」の言葉は消えかけていま

した。私の気持ち伝わったのか子ども達も

竿から離れて他の遊びをする様になりま



が釣れたのです。その時の喜びといったら...。しかし、魚の方もバカではありませんでした。また釣れない時間が続きます。しばらくたつて、下の子が少しだけ大きな(私のものより)アジを釣りました。お兄ちゃんにも釣らせてあげたかったけど、教室終了の時間がきてしまいました。結局2匹しか釣れませんでした。が、竿の準備や、エサの用意などして下さったスタッフの方々のおかげで楽しい一日になりました。本当にありがとうございました。

です。

八幡市フィッシング教室

吉川 幾久雄

初秋の一日、親子ファミリーを対象にフィッシング教室を開講し、小学校の講堂で、淀川水系の魚たちを中出さん、釣り仕掛けを山田さん、釣り仕掛け作りを続木と藤井と渡辺と能島さん、鯉釣りの餌は能島さん、つりのマナールは続木さん、つりを楽しめようは吉川、釣り教室開講と安全、諸注意事項について、市生涯学習課 安倉氏、若松氏の講座を開き、昼食後は「志水池」での「鯉釣り」に熱中しました。

参加された老若男女すべての方が大鯉を釣りあげ、インストラクターはタマを持って、右往左往。幸に天候も良く青空のもとフィッシングを楽しみました。



大東市野崎少年教育センター釣り教室 釣りを学び、環境を考える

大東市立野崎少年教育センター 坂下 賢治

10月12日(土)、泉南郡岬町の淡輪漁港にて、49名(19家族)の参加でファミリー釣り大会を開催しました。

現地に午後2時30分頃に到着。インストラクター(大阪府釣りインストラクター連絡機構)の指導のもと釣り始めました。

参加者の中に釣りをするのが初めてという人もおられ、仕掛けのつけ方から釣り方までインストラクターの方に丁寧に指導していただきました。

釣り初めは、イワシが少し上がる程度で、昨年のようにあまり釣れないのではと心配しましたが、午後5時過ぎにアジの群れが回って来て、入れ食い状態で、一度竿を上げると5・6匹かかっている、釣れたアジを釣り針からはずすのがもどかしさを感じるくらい忙しい人もいました。

午後6時15分に終了の合図。まだまだ釣れそうでもっと釣りたい」という気持ちを押しさながら、みなさんに後片付けをしていただきました。

釣りの後片付けで大切なことは、残ったえさや仕掛けなどを釣り人自身が責任を持って持ち帰る(処理する)ということです。

ファミリー釣り大会では、後片付けもインストラクターの方が指導してくださり、釣り場を含めた自然環境を守る大切さを参加者のみなさまに学んでいただいています。

我が家の趣味になった釣り 太田 律子

親子で自然に触れながら楽しめる事を探していた私たち

ちは、昨年ファミリー釣り大会に参加

して、すっかり釣りが好きになりました。釣りに参加しただけで、素人の私達とはまどうばかりでしたが、インストラクターの方々がいろいろ親切に教えて下さり、サヨリとアジが釣れ子供達もとても喜んでいました。その後、

親子で本や道具を買い求めて何度か釣りに出掛けました。

今年こそはと、

センターからのプリントを見逃さず、親子そろって釣り教室に参加する事が出来ました。魚の種類や道具の使い方、糸やロープの結び方など知らない事をたくさん学びました。今まで釣りに行った時は、主人に釣りの準備をしてもらっていた。今回の釣り大会では5年生の息子も3年生の娘も私も、自分で準備する事ができました。

これも釣り教室に参加したおかげだと思ひ喜んでます。また教室で手作りの浮木を作ったのですが、親子4人、ここがキレイに出来たとか、だれが上手だとかワイワイ言いながら作って楽しかったです。教室では釣り場でのマナーも教えて頂き、これは本当に大切な事だと思いました。自分達も楽しむのだから釣り場のゴミを掃除したり、人の横で釣る時は「ここよろしいですか?」と聞く等々。ほんのちょっとした心遣いで、気持ち良く釣りをして帰ってこられるんだなと思ひ、私達も実行しています。それは、どこへ行っても共通する事だと思ひますし、子供達にとっても良い教育になったと思ひます。

今回の釣り大会は、少しいろんな事がわかっていたので余裕をもって楽しむ事が出来ました。はじめは、なかなか釣れなかったのですが、帰る間際、辺りがうす暗くなつてから、アジの群れがやってきて、魚ははずすのが忙しいうら釣れてとても楽しかったです。これから釣りに行く事があ



ると思ひますが、教えて頂いた事を生かして楽しく釣りをしたいと思ひます。そしてマナーの良い釣り人でありたいと思ひます。有難うございました。

釣り教室&ファミリー釣り大会

東野 英治

今年度も恒例になったファミリー釣り教室&釣り大会は、楽しく開催され、内容のある教室となりました。

今回も生徒さん達は熱心で、一生けんめい仕掛け作りや、ロープワーク、浮木作り、マナー、安全についての教科を勉強しました。

特に今回は辻さんにご苦労頂きました。

ソースかん樹脂の容器を使った浮木作りは好評で生徒さん達も楽しく作り、自分独自のオリジナル作品を一人3コ以上作りました。それぞれ浮力の違う浮木で10月の実釣に、夢を持った力作を作りました。

さて10月12日の釣り大会は淡輪漁港でおこないました。車中釣り場でのマナーや危険な事等を皆さんに話しました。

漁港到着後、それぞれの方に釣り竿、仕掛け、エサの配布に一時は、大忙しでした。竿を手にした親子さん達が期待に胸ふくらませインストラクターの方々と思ひ思いのポイントへ入り釣りに専念、しかし無情にも魚はキビシイアタリです。インストラク



ターの方々も一人でも多く釣果がある様に忙がしく走り回っていました。しかしながら、この様な中でも親子で楽しく小魚が釣れるたびに歓声が

あがっていました。楽しく釣り大会は終わりました。ただ反省しなければならぬのは、参加者一名の方がゴンズイの毒に当り痛い目をされた事が今後の課題となりました。

今回のインストラクターは7名で世話役に当りました。新たに近藤、藤原、南部から高瀬さんの参加を願いました。

京都府南山城少年自然の家 ファミリーネイチャースクール

中出 隆文

盛夏の8月13日(火)、14日(水) 南山城少年自然の家はファミリーネイチャースクールを開講し、清掃、カヌーと川遊び、バーベキュー、星空観察、つり仕掛け教室、魚釣りエビ釣りの行事を行った。インストラクターも参加者41名と自然を満喫しました。

13日(火)は川の様子を調べ、餌を準備し、竿を整え、夜はつり教室を開講し、仕掛け作りに深夜まで協力し、全員の竿、仕掛け、餌を準備して寝

すがすがしい山の気を吸って参加者とともに伊賀川原に竿を出しました。白ハエムツモロコ、手長エビ、ブルーギルと小物乍ら

浮木を沈め、にぎやかな釣教室となりました。天候に恵まれ、無事終了した事は喜びです。





岬町「みらい」主催 歓喜極まる釣り体験のサビキ釣り大会

川村孝二

9月29日岬町の淡輪ヨットハーバーに於いてNPO法人「みらい」の主催による府下の身障者達への海釣り大会が実施された。

時折小雨のバラつく天候ながら「みらい」メンバー数名のボランティアにより、朝から釣場、橋で釣魚用の8個の生簀、ブルーリング、竿やサビキセツ約80本の釣具の準備が進められた。釣場は府マリナ協会の賛意で特別に解放されたヨット、橋で、通常は竿の入れない好釣場である。

開会式場の橋入口は、大会に参加する府下の身障者達70余名とサポートする学生や若者達のボランティア40数名が参集して、賑やかに騒々しい風景に急変し、海釣りへの感動と期待から、参加者達には時折残る小雨も何の支障にもならないようである。

当JOFIからは南部支部より高瀬支部長ら4名のインストラクターが出席して、JOFIのPRの後、釣りの手ほどきや竿捌きの指導、またオコゼやゴンズイ等の危険な魚の注意や取り扱いを説明して、参加者を8班に分け、1尾長寸の太物賞と全重量賞のグループ競技として、午後1時アミエビを入れたサビキの第1投目が投入されて釣大会は開始された。

2〜3投目当たりからコアシが釣れ始め、竿を上げる度にキャーキャーと歓声が乱れ飛び、その素直な喜びの表情には、応援のJOFIのメンバーも感動して心が癒され、汗だくながら疲れを忘れてのお手伝いに没頭した。こんな釣りの雰囲気は、一般の健常者の釣り大会には決して見られない風景で貴重な体験できたと思う。

時合には各所で、針全部に「コアシ」が鈴なりに釣れサビキ釣りの醍醐味を楽しむ者や、車椅子から遠慮がちに出ず不自由な手に、竿を握らせてもらい「コアシ」の引きを楽しみ大袈裟とも思える笑顔と歓喜の表情は、今日の釣大会の意義を象徴しているようである。

「コアシ」サンバソウ、子グレ、子チヌ、子コサバ、ガシラ、サヨリ、更にオコゼ、フグと多種類に恵まれた釣果に全員満足して、5時に納竿し審査場へ向かった。

審査後、来年も是非ここに来たいと、お互い約束し合い、釣れた魚を土産にボランティアのサポートと釣り成果を自慢しながら帰途についた。

泉佐野市「市民海釣り教室」開催

山崎勝彦

恒例の泉佐野市「市民海釣り教室」が8月24日(土)と27日(土)に泉佐野市生涯学習センターで釣りのマナーや道具と仕掛けについての講義が、9月7日(土)に和歌山マリナシティー海釣り公園で、実釣会が開催されました。JOFI大阪からは高木理事他4名が、講習と実釣会のお手伝いに参加いたしました。



この講座も今年で9回目となり参加者も夫婦や親子、定年後のシニア等幅広い層からの参加が見られ、道具や仕掛けについての質問が相次ぎ関心の高さが窺えました。

実釣会の参加者は20名で、生涯学習センターの前に、午前6時に集合しバスで和歌山マリナシティー海釣り公園に向いました。当日の天気は快晴で強い日射しの中、各自持参の竿にリールと仕掛けをセットし、アミエビのマキ餌を籠に詰め実釣開始です。

2回の講習の成果が、特にトラブルも無く第一投が出来ました。最初はフグやイサキの幼魚が釣掛りしていましたが、マキ餌が効き始めると鰯の群が集り、ダブル、トリブルで釣れ、大人も子供も、我を忘れて魚を取り込んでいました。しかし、中には巻き過ぎや隣りの仕掛けにお祭りをする人が出始め、我々の活躍する



場がやって来ました。底の取り方、魚の外し方、リールの巻き方等を指導し受講者は熱心に聞いていました。

釣果は鰯を100匹以上も釣り上げ小型のクーラーが一杯になる人もあり全員が満足して11時30分に納竿し、子供達には帽子を又グレ等の太物を釣り上げた人には賞品を授与して終了いたしました。

ボイススカウト釣り講習者査会

柴崎 隆

今回で6年目第7回のボイススカウトナニワ地区釣り章講習者査会を大阪府青少年海洋センターで10月27日に43名のスカウトの参加で開催しました。

この会はスカウトの技能章を取得する為に開催するもので、船釣りを物部さん、投げ釣りを高瀬さん、防波堤釣りを辻さん、溪流清流釣りを東野さん、ルアーを奥村さん、釣りのモラル、法規、資源、環境保護、安全確保を柴崎で講習を行い午後は木枯し一号がふきましたが、全員元気に安全なセンターの橋にて釣りを楽しみ無事終了することができました。

インストラクターの皆さんありがとうございました。

釣り章講習者査会

大阪第十八回 前平 百合

私はこの講習者査会を受けるまで、釣りをしたことがありませんでした。午前の講義では、知らない言葉が多く、何がかわりませんでした。しかし、午後には実際に釣りをしてみると、とても楽しかったです。講師の方方も親しみやすく、わからないことも気軽に

聞けました。そんなことをやっているうちに、いつのまにか時間が過ぎていました。

この講習者査会は、一日という短い時間でしたが、釣りについて色々知ることができたので、参加して本当によかったと思います。また機会があれば釣りをやりたいです。

最後にこの講習者査会に来て下さったリーダーの方々、講師の方々、本当にありがとうございました。

初めての釣り章に参加して

松原第一回 長谷川 均

地区のスカウト委員会からの紹介で、なにわ地区主催の「釣り章」に参加することになりました。

スカウトは4名だけの参加でしたが、みんな釣りは大好きで、どんな釣りの技術をマスターできるかと興味津々でした。

5人の講師の方の講義内容は楽しく、単なる釣りの講義に終らず、魚を釣るためにシナリオを作るとか、餌は自然の中から見つけるなど、釣りに対してより深い取り組み方をすることで、いっそう興味が湧くことを教わりました。

後半の実技は「さびき釣り」で、強風で大変寒かったのに、もかわらず、時間ぎりぎりまで頑張りました。大満足で帰路につききました。

講師の方々ならびになにわ地区の皆様には大変お世話になりました。話になり、ありがとうございました。





会員からのはなし

鮎、釣、地球環境、変遷とJOFI

大西 勇

あゆ、国語辞典では、(鮎、香魚、年魚)(鮎)アユ科の淡水魚、稚魚は海で育つ、背は青黒く、腹は白く、芳香がある、寿命はふつと1年だが越年するものもある、食用魚とある。鮎と云えば滋賀県の琵琶湖を指す。稚鮎の出荷量は全国一だろう、周辺の人々、漁をする人達は湖を(海)と呼んでいると聞く、海のように広大で恵も多いという事だろう。辞典で稚魚は海で育つとあるが、琵琶湖も同様湖で育つ、本来ならば自然の法則に従って育ち、春になれば川を溯上し、良餌場を確保。硅藻、藻、水垢、水棲動物等を食し、六月に入れば大きく育ち、私達釣人を楽しませてくれる鮎である。願わくば釣り人工を加える事無く、四季、自然の恵み、営みの中で回帰永劫してほしいと願う。2002年ABCテレビ放映、(異常気象、迫り来る危機)に依ると日本最後の清流、四万十川にも異変が生じている、海水温度の上昇による被害は海に下った稚鮎が高水温にさらされ死滅している。

ここ20年間の統計に依ると稚鮎の採捕量は5分の1に激減したと云う。原因は土佐湾の水温の上昇との事で有る。1965年頃の鮎と最近手にする鮎を思い起し比較して見ると今日の鮎はどこか違う。鮎らしからぬ鮎の感がする。それも鮎のみに限らず地球の總べて、自然の生物、人体にも各所で異変が生じて居ります。2002年、世界の森林火災はロシア(ハバロフスク)アメリカ(コロラド)等を含め2万K平方米、日本(四国)の面積を上回る広大な森林が灰と化して居ます。又南方海上、フィリピン、諸島周辺海洋の水温が0.5度上昇しこの為の上昇気流の影響

況により(アフガニスタン)の住民、1、200万人が干魃による被害と400万人が生命の危機に脅して居るようです。又最近中部ヨーロッパ各地に於ても豪雨に依る未曾有の大洪水と報じられて居ります。地球の温暖化は増々激増するでしょう。

戦後、技術革新、改革に依り化学の進歩は著しい発展を遂げた、反面、自然環境破壊も急激に変化した。戦後最も注目すべきは、各分野に於ける化学、(石油製品)であらう、湯水の如く使う燃料、アセチレン(ビニール)是らの製品は至る所に散乱し、山、川、海、空、を汚染し、自然の営み春夏秋冬の節季が異変しつつ有り重大事で有る。私達人間(加害者)を含め他の生物も危機に瀕しています。自然環境を破壊し生命を脅かす行為は重罪、重罰、死罪にしたい。技術革新は釣り業界にも変革をもたらした。そしてあらゆる製品が石油化学物質による製作物で有る。自然。天然。利用の製品は少い様に思われる。私は自然。天然物が必ず良いとは思わないが、要は安値で技術的に優れ釣り人のニーズ(必要性、要求)に答えればいい。しかし最近の製品は、高級品、高単品が多い、釣業界も心して初心に返る期ではないか。反省の時が来たやに思われる。釣人も同様素朴と自然を愛し奢る驕り無き釣りをし心々を御願ひしたい。今こそ反省、各自、自分本位を捨て視野の広い大きな心で見つめ直す時、世紀に入つたと思ふ。

いよいよ此れからは(インストラクター)の皆さんの活躍の時が来たと思う。自然保護を守り、環境整備の保持、釣り技術の向上、研鑽、自己精神改革と常識、良識を見聞向上をめざし諸事を率先行して頂きたい。人間の価値は何を行なうかで有る。JOFIの方々の今後ますますの志に期待をし一つの惑星地球の再生を双肩に取組んで頂きたい。

私の釣

武井 久美子

釣に関して、何か自慢する事があるかなど、聞かれはたと頭をかかえた、釣に関して自慢する事?

まず釣が好である。何が一番楽しいか、竿を出して川辺に立つ(足元で鳴く河鹿蛙。美しい鷺の声を背に、水の音、風の音、大地の中のオーケストラ、最高の気分、これほどの贅沢が他にあるとは思えない、至福の時である。

友人と釣に行く約束をする、胸がワクワク、まるで小学生の遠足の前夜のように、時に誘われれば他の釣もするが、寒さに弱い私は夏場の鮎釣が中心になる。釣を始めた切っ掛けはと聞かれれば、幼い頃、父のお供をしてその頃は美しかった大和川へ釣に行つた時が始まりだと思ふ。

何年かブランクがあり、子育てに追われ釣の事などすっかり忘れていたある日、知り合いに誘われ、ドライブを兼ね鮎釣見学、今はいない父の姿をそこに見る。父親子だった私、父に会いたかった。今、私は父に会いたい時に竿を出す。細い竹の先に糸を付け針の先には、確か御飯つぶだったと思ふ。

あのピリピリ、手に伝わって来る感触、遠い思い出をくすぐられ胸がドキドキ、そうやってこんな楽しい事があつたんや、私も仲間に入れてもらおう事にする。長い竿を手にした時、釣にはせんせん興味の無い家人達、母は、又何を始めたのかと、

半ばあきれ顔、それを尻目に、毎年の開禁日指折り数える様になり、今は、首までどっぷりつかっている。

そんな中、いかに釣った魚を美味しく食するか、釣った魚への礼儀である、などと唱え、塩焼に始まり、背こし、鮎ぞうすい等々、10種類以上。

ちよつとした腕前(ふかふか)

友人や釣仲間と鮎談義に花が咲く、釣天狗とは良く言った物だ、皆またまたと言いつつ、心の中は自分が一番だと思つている。可愛いではないか、釣果を上げるには、いかに川見が大切か、いかに繊細なる仕掛けをするか、(皆んな、ちがう、ちがう、仕掛けじゃない、腕腕、と思つている。)などと、事細かに説明する者、自分の仕掛けは絶対に見せない者、細糸を付け目的の魚ではなく、30センチはあろうかと思つ石斑魚を掛け、大ピンチ、おとり鮎を痛めない様に、悪戦苦闘をして、どの様にして取り込んだかなど、立上がり、身振り、手振り役者そのけで演舌する者、右往左往しているその姿を見て、大笑いしながら、明日の釣へと花が咲く。

私はと言えは、もっぱら女性仲間を増やす事に、闘志を燃やしている。四季の移ろいを肌と感じ、釣をしない時、旅行先では知らない間に、川を覗き込み、あの石があの瀬が、又夏にこの水量があればと祈つたり、つぶやいたりすると話し、釣がいかに楽しく胸が躍るかなどと知らず、知らず、ハイテンション、自然を大切に、自然の中に身を置く事が、どんなに癒され、楽しい事かと話がはずむ。

釣を通じて多くの仲間が、出来た事が、私の自慢と言えは自慢になる。

来たれ自称美人初志、釣をする男性は皆優しいぞー! うめ、まいいか、集合。

おわり

JOFI大阪会員の声より

●仕事の都合上なかなか行事に参加できませんので、会報を楽しみにしています。出来れば発行回数を多くしていただけないでしょうか。

ご意見をいただき有り難うございます。

会報の発行回数を多くすることですが、会員の皆様の会費で運営しております。一回500部印刷し費用は年二回で14万円(消費税を含む)かかっており、これ以上増やすことは出来ないと考えています。

配布先は、会員の皆様、マスコミ関係と大阪府の官公庁及び各地のJOFI等にお送りし、今後も拡大をしたいと思っています。

皆様からの近況、魚釣り、水資源についての環境問題等の投稿をお待ちしています。

また、編集委員は四名で作業していますが大変です。皆様の中で協力が可能な方がおられれば参加願いませんでしょうか。連絡をお待ちしています。

原稿の送り先

大阪市中央区東心斎橋1-9-21
ニュー長堀ビル3階34号

大阪府釣り団体協議会

JOFI大阪広報部宛

参加協力連絡先

電話06-6245-4800

JOFI大阪事務局

(広報部委員長 物部胤三)

会員リレー伝言板

近藤 眞五



今年の解禁前のアユは、空前の大豊作と有名な河川の漁協も鼻息荒かったのですが、いざ蓋を明けてみると、ほとんどが駄目で水温が上がら

ず冷水病でアユが大量に死んだらしく、この冷水病も関西だけで、今ではつきりした原因はわかっていないようです。

又、日釣振が冷水病対策と致し、署名運動を始めるそうですので皆さんも御協力お願い致します。アユが不調な為、私の好きなハエ、オイカワの話でも、これからハエ釣も好シーズンに向い、今から楽しみです。京都府宇治市を流れ大阪湾に注ぐ京都一の大河、この宇治川の上流域の宇治大橋上、下流一帯が主な釣場で、川幅は広くポイント選びも難しいですが、厳寒期の一月から二月でも常連さん達は15、18cm級、穏やかな日と川下方面から吹き上げてくる好条件の日には150、200尾ぐらい釣れています。

「ネリエのノウハウ」

私の場合

参考までに

一回分の配合

ホットケーキの素 大さじ2

卵 黄 1ヶ

水 あめ 小さじ1

蛍光食紅 小さじ1

白砂糖 小さじ1/2

ハチミツ 小さじ1

黒砂糖 小さじ1/2

漢方薬系香料のウイキョウ、セキキョウ 耳かき各1

アミノサン 耳かき1

バナラエッセンス 少々

イチゴシロップでねりあげる

次回は登録番号5197 近藤幹雄様よりお願い致します

「外来魚」に対する大阪府の取組み

大阪府内水面漁場管理委員会 中 出 隆 文

近年外来魚対策が社会問題化し各界で議論を呼んでいます。大阪府の基本的な取組及び対策を列記します。

外来魚の問題点

- ・生態系の攪乱
 - ・漁業への影響
 - ・移植の制限の法定化
 - ・棲み分け封じ込め論
 - ・輸入制限の検討
 - ・各団体の考え方
 - ・在来種との交雑
- 等々に付いて検討し大阪府の基本的な施策と考える方は次の通りです

●大阪府の考え方

- ・移植の禁止(平成12年3月31日付)大阪府漁業調整規則改正
 - ・漁業権魚種(当面は指定しない)
 - ・外来魚の駆除と天然記念物(イタセンパラ、アユモドキや希少生物ニッポンバラタナゴ等)の保護
 - ・養殖漁業又は漁業権漁業に被害を与えた場合駆除に努める
 - ・棲み分け論(国及び他府県の動向に留意する。)
 - ・啓発活動(外来魚の問題点を小中学生に対し啓発する。)
- 以上が大阪府の基本的な考え方ですが、会員各位の御意見を賜わればと思います。事務局まで書面でお願います。

わが家の自慢魚料理

蛸の天麩羅

藤原 君代



蛸は調理する前に塩でヌメリ取りをしますが、私はここにご紹介する方法が一番気に入っています。たつかりの米ぬかです。よく洗い、蛸のぬめりを取ります。ヌメリが早くとれて、余分な塩味が付塩味塩味が付かないので後で好みの味付けができます。

夫は茹で蛸が好きですが、ここでは私の好きな天麩羅をご紹介します。

天麩羅にするのは、なんといっても生きた蛸を使うのが最高です。さらに足の太さが肝心、最低でも1kg以上の大きい蛸(こうもり傘クラス)がいいでしょう。なるべく薄くスライスし、油のねをなくすため、しっかりと小麦粉をまぶします。油は7割度熱し、衣にさつとくぐらせた蛸を6、7切れずつ揚げます。お好みで天つゆ、塩こしゅうで……うまい!

編集後記

皆様方の多数のご協力のおかげで他方面から数多くの原稿をお寄せいただき有り難うございました。厚くお礼申し上げます。インストラクター研修では今回、初めてNPO法人の講習が実施されました。是非、記事をお読み下さい。今後の予定として、平成15年の新春懇親会のご案内をしております。多数のご出席をお待ちしております。年に一回JOFI大阪の仲間がござって一同に集まり大いに楽しく氣勢をあげましょう。来年もよろしくお願い致します。

(広報部 稲本英爾)